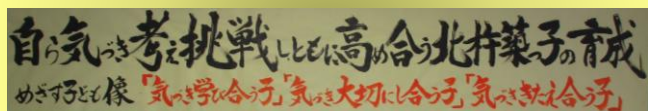


# ともに・・・

R8. 6. 5 文責校長



## 教師自身が“気づく目”を成長させて・・・

ある日の昼休み終了後、4・5年生（複式）担任が、自身が受け持つ子どもたちの靴箱の様子を見て、靴の置き方の一部の乱れに気づきました。

そこで、5時間目の始まりの際、子どもたちに、「靴箱に行ってみよう。何か気づくことはないかな？」と投げかけ、靴箱に行かせました。

靴箱に行った子どもたちは、靴箱の様子を見て、靴の乱れに気づいたようです。「どうしたらいい？」と担任が再び声をかけると、誰もが「丁寧に靴を扱って、揃えて置いた方がよい」と答え、靴の入れ方への意識を高めていました。

翌朝、4・5年生の靴箱を見てみると、全員の靴がきちんと揃えられていました。



靴箱への靴の入れ方については、昨年度、揃えて置かない靴がたくさん見られたため、生活指導担当の先生から、靴の置き方の具体例が示され、かかとの位置を表すテープも貼っていたのですが・・・。そのときは、意識して置いている、時が経てば忘れ、だんだんと易きに流れてしまうようです。

しかし、そのまましておくわけにはいきません。“靴の乱れは心の乱れ” 意識すれば北杵築っ子はできます。

今年度本校では、学校教育目標にあるように、子どもたち自身の“気づき”を重視し、そこから考え行動していく姿をめざして育てていきます。

そのためには、まずは教師自身が“気づく目”を持つことが必要です。この4・5年生の事例はまさにそのことを示しており、担任の“気づき”がなければ、子どもたちに靴の置き方の現状に気づかせ、自分の心に向き合う場を失っていたことは言うまでもありません。

今年度は、子どもたちの育ちと同時に、我々教職員自身の“気づく目”を成長させる1年間にもしてまいりたいと思います。

## 充実した話し合い活動を

～別府教育事務所訪問～

5月21日（木）、別府教育事務所による学校訪問があり、子どもたちの学習の様子をご覧いただきました。

その後の協議の中で、「どの教室も“安心して学べる雰

囲気”“失敗を受け入れる雰囲気”“子どもの発言や考えを尊重する姿”がある」とのお褒めの言葉をいただきました。

一方で、先生対子どもの対話の場面が多かったので、子ども同士の対話の場を積極的に仕組むとよいというご助言をいただきました。



4月14日発行の学校通信でもお伝えしましたが、学校教育目標にある『ともに高め合う』は、特に学習の場においては、“他者と進んで解決しようとする”姿をめざしており、子ども同士が主役となった話し合い・関わり合いの中から、最適解を見つける営みを大事にしたものです。

しかし、子どもたちに全てを任せっきりにしてしまうものではなく、子どもたちの話し合いを教師が見取りながら、必要な場面での助言も重要になります。

若手教職員が多い本校ですから、話し合い場面における教師の出番はどうあればよいのかについても研修を重ね、充実した授業をめざしてまいります。

## 修学旅行～第1弾～

5月25日（月）、26日（火）、1泊2日の修学旅行を実施しました。主な見学地は、佐賀県吉野ヶ里歴史公園、長崎市原爆資料館、島原市雲仙岳災害記念館、熊本県グリーンランドで、両日天気に恵まれました。

1日目、子どもたちは早朝6時半に学校集合。出発式を終え、東小学校とバスに同乗です。玖珠SAで、他の豊洋・護江・大内、八坂、東・北杵築小の子どもたちを乗せた合計3台の貸し切りバスが合流し、そこからはバスが連なっている移動です。

9時過ぎに最初の見学地である『吉野ヶ里歴史公園』に到着しました。北墳丘墓に徒歩で向かう途中、地面がいくつも盛り上がった場所がありました。その場所をバスガイドさんが示し、「この盛り上がった部分はお墓です」と説明すると、「えっ！」と驚く子どもたち。「当時、栄養を取れなかった子どもたちが、たくさん亡くなっていました」とのお話もあり、子どもたちは、その後多くの甕棺に目を向ける中で、「これは、ちっちゃな甕棺だから、子ども用だ」と、甕棺の大きさから埋葬されていた人物に思いを馳せ、当時の人の死生観の一端に触れる見学となりました。

『吉野ヶ里歴史公園』見学の後は、大村市内にある長崎インターナショナルホテルでの昼食です。長崎名物の“皿うどん”や食パンにエビのすり身を挟んであげた“ハトシ”をみんなで頬張り、午後からの見学に向け、元気をチャージした時間となりました。

午後からは、長崎市内に入り、原爆資料館等の見学です。（次号に続く）

